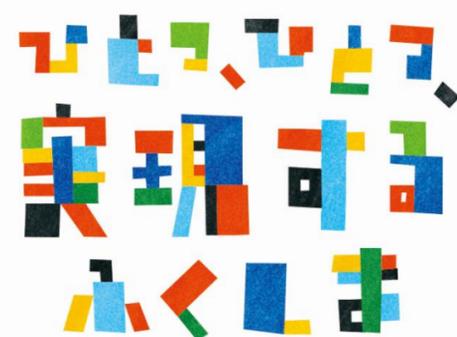


令和6年度
授業の魅力化応援プロジェクト事業



すべての子どもの
資質・能力を育成する

「学びの変革」に向けた
実践事例集 Vol.2

～小学校算数科～

令和7年3月
福島県教育庁 義務教育課

はじめに

福島県教育委員会では、令和3年12月に第7次福島県総合教育計画を策定し、「学びの変革」を柱とした6つの施策を展開しております。その中では、様々な教育活動において、画一的な一方通行の授業等から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成することを目指しております。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、福島県の子どもたちは、国語や算数の勉強が好きであると回答した割合が、全国に比べ高い傾向にあります。これは、各学校において、子どもたちが興味・関心をもてるよう、創意工夫を凝らしながら、「学びの変革推進プラン」に基づく授業改善が進められていることの表れであると感じております。しかし、小・中学校国語では平均正答率が全国平均をやや下回っており、小学校算数及び中学校数学では、全国平均を下回る厳しい状況が続いております。

そこで、各種学力調査において県内で成果を上げている学校の授業実践を通して、これからの授業の在り方や授業改善の視点等を見つめ直し、県全体で共有していきたいと考えました。

「『学びの変革』に向けた実践事例集Vol.2～小学校算数科～」では、県内で成果を上げている学校の授業実践を紹介しております。各学校における授業改善や校内研修等にお役立ていただければ幸いです。

目指すべき姿

個人と社会のWell-being(一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ)の実現

第7次福島県総合教育計画

育成したい人間像

急激な社会の変化の中で、
自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、
多様な個性をいかし、対話と協働を通して、
社会や地域を創造することができる人

学びの方向性

「福島ならではの」教育の充実

- 「福島らしさ」をいかした多様性を力に変える教育
 - ・福島の課題を題材とした学び。
 - ・他者との対話と協働、新たな技術や方法、価値の創造、多様性の尊重等を学ぶ、多様性を力に変える教育。
- 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育
 - ・福島の良さ(豊かな文化や歴史、自然環境、第1次産品等)をいかした学び。
 - ・生まれた場所や将来働く場所は異なっても、福島県で学び育つ過程で、福島県に誇りを持つことができる教育。

▲学対話

◀川の生き物調査

実現に向けて

第7次総合教育計画の施策の展開

〈学びの変革〉

- 全ての子どもに必要な力を育成するため、一方通行・画一的な授業等から、「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」へと学び方の変革を進めること。
- 子どもたちが、学ぶ意義を、学ぶ過程で自ら見いだしていけるような学びを進める。

個別最適化された学び

協働的な学び

探究的な学び

学びの変革の推進

〈学校の在り方の変革〉

- 「子どもたち一人一人に必要な力を確実に育成していく」という本来の学校の役割を果たすことができるよう、学校・家庭・地域が広く認識を共有し、学校の在り方の変革を進めること。
- 働き方改革等により質の高い教育活動を展開する。

「福島ならではの」教育とSDGs

- ① 本計画に基づく施策を展開することで、SDGsに掲げられた誰一人取り残さない包摂性のある持続可能な教育環境を目指します。
- ② 本計画に基づき子どもたちを育成することで、福島県の復興・創生のみならずSDGsの17の目標の達成につなげます。
- ③ SDGsの視点を踏まえた探究的な学びを推進します。

SDGsの視点をいかし、「福島ならではの」教育を推進

学びの変革を柱として、6つの施策を展開

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; font-weight: bold;">施策1</td> <td>「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する</td> </tr> <tr> <td>施策の方向性</td> <td>様々な教育活動の中で対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせ、画一的な一方通行の授業等から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成します。</td> </tr> </table>	施策1	「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する	施策の方向性	様々な教育活動の中で対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせ、画一的な一方通行の授業等から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成します。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; font-weight: bold;">施策4</td> <td>福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する</td> </tr> <tr> <td>施策の方向性</td> <td>福島県で学んだ子どもたちが福島県に誇りを持つことができるよう、学校と地域の連携・協働や地域をフィールドとした探究的な学びの推進等により、「福島を生きる」教育を目指します。</td> </tr> </table>	施策4	福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する	施策の方向性	福島県で学んだ子どもたちが福島県に誇りを持つことができるよう、学校と地域の連携・協働や地域をフィールドとした探究的な学びの推進等により、「福島を生きる」教育を目指します。
施策1	「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する								
施策の方向性	様々な教育活動の中で対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせ、画一的な一方通行の授業等から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成します。								
施策4	福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する								
施策の方向性	福島県で学んだ子どもたちが福島県に誇りを持つことができるよう、学校と地域の連携・協働や地域をフィールドとした探究的な学びの推進等により、「福島を生きる」教育を目指します。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; font-weight: bold;">施策2</td> <td>「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する</td> </tr> <tr> <td>施策の方向性</td> <td>働き方改革の推進や教員の養成・採用・研修の充実等により学校の在り方を変革し、教員が主体的に学び、やりがいを持って働くことができる持続可能な教育環境を構築することで、教員の力、学校の力を最大化します。</td> </tr> </table>	施策2	「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する	施策の方向性	働き方改革の推進や教員の養成・採用・研修の充実等により学校の在り方を変革し、教員が主体的に学び、やりがいを持って働くことができる持続可能な教育環境を構築することで、教員の力、学校の力を最大化します。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; font-weight: bold;">施策5</td> <td>人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる</td> </tr> <tr> <td>施策の方向性</td> <td>健康マネジメント能力など生涯学び続ける力の育成に取り組みとともに、多様なニーズに応えられる社会教育施設の充実や、地域に根ざした文化芸術資源の有効活用等により多様な学びの場をつくらします。</td> </tr> </table>	施策5	人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる	施策の方向性	健康マネジメント能力など生涯学び続ける力の育成に取り組みとともに、多様なニーズに応えられる社会教育施設の充実や、地域に根ざした文化芸術資源の有効活用等により多様な学びの場をつくらします。
施策2	「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する								
施策の方向性	働き方改革の推進や教員の養成・採用・研修の充実等により学校の在り方を変革し、教員が主体的に学び、やりがいを持って働くことができる持続可能な教育環境を構築することで、教員の力、学校の力を最大化します。								
施策5	人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる								
施策の方向性	健康マネジメント能力など生涯学び続ける力の育成に取り組みとともに、多様なニーズに応えられる社会教育施設の充実や、地域に根ざした文化芸術資源の有効活用等により多様な学びの場をつくらします。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; font-weight: bold;">施策3</td> <td>学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる</td> </tr> <tr> <td>施策の方向性</td> <td>誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちが、可能性や個性を伸ばすことができるよう、子どもたちの状況に応じた教育機会を提供や支援を行うことで、多様性を力に変える土壌をつくらします。</td> </tr> </table>	施策3	学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる	施策の方向性	誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちが、可能性や個性を伸ばすことができるよう、子どもたちの状況に応じた教育機会を提供や支援を行うことで、多様性を力に変える土壌をつくらします。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; font-weight: bold;">施策6</td> <td>安心して学べる環境を整備する</td> </tr> <tr> <td>施策の方向性</td> <td>子どもたちが、どの地域の学校でも安心して学ぶことができるよう、少人数教育の充実、施設・設備の整備に取り組みます。</td> </tr> </table>	施策6	安心して学べる環境を整備する	施策の方向性	子どもたちが、どの地域の学校でも安心して学ぶことができるよう、少人数教育の充実、施設・設備の整備に取り組みます。
施策3	学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる								
施策の方向性	誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちが、可能性や個性を伸ばすことができるよう、子どもたちの状況に応じた教育機会を提供や支援を行うことで、多様性を力に変える土壌をつくらします。								
施策6	安心して学べる環境を整備する								
施策の方向性	子どもたちが、どの地域の学校でも安心して学ぶことができるよう、少人数教育の充実、施設・設備の整備に取り組みます。								

「第7次福島県総合教育計画概要版 福島県教育委員会」より

目次



「感じて動き出す」学びに向けて

1



子ども一人一人の資質・能力を育むために

2



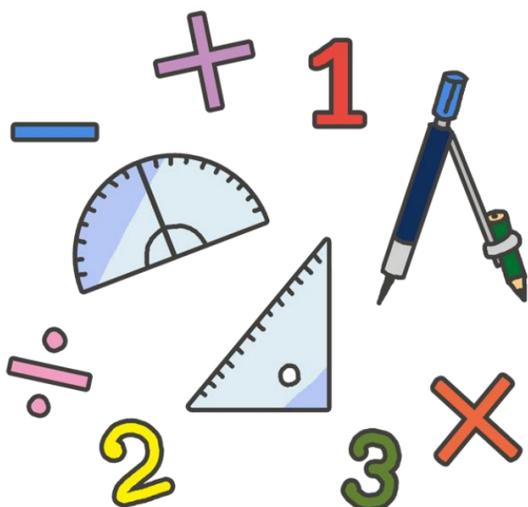
実践事例

3~10



資質・能力を育む授業づくりのために

11~14



「感じて動き出す」学びに向けて

4 課題克服に向けた授業改善3つのポイント



「感じて動き出す」学びへ

1 学び出す
「確かめたい」「考えたい」「やってみよう」

すべての子どもが課題解決の見通しをもったり、解決方法を選択したりして、自ら動き出そうとする授業にします。

2 学び合う
「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」

すべての子どもが友だちの話に耳を傾け、自分の考えを確かめたり、新たにしたり、磨き上げたりする授業にします。

3 学びとる
「分かった」「できた」「がんばった」

すべての子どもが今日の授業で「自分は何がわかり、何ができるようになったのか」を実感できる授業にします。

P9

教師が「話す」授業から、
教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

～ 授業改善チェックリスト ～

- <すべての子どもが「学び出す」授業にするために>
- すべての子どもに結果の見通しをもたせたり、解決の見通しをもたせたりしている。
 - すべての子どもの多様な見方や考え方を引き出すことができる学習課題を設定している。
 - 教材との出合わせ方を工夫し、「考えたい」「やってみよう」という思いを引き出すようにしている。
- <すべての子どもが「学び合う」授業にするために>
- 友だちの考えを聞きたい、自分の考えを話したいと思う発問を設定している。
 - すべての子どもが、互いの考えを比較、検討、吟味することができる時間を確保している。
 - 子どもと子どもの発言をつないで、集団で学び合える授業づくりをしている。
 - 分からないことを「分からない」と言える安全・安心に学べる学級になっている。
 - 教師が話しすぎることなく、子どもが話す機会を多く確保している。
- <すべての子どもが「学びとる」授業にするために>
- 授業で何がわかり、どのようなことができるようになったのか、自分の言葉で学んだことを振り返らせている。
 - 学んだことを活用したり、次の学びにつなげようと考えたりする場面を位置付けている。
 - 個に応じた振り返りの視点を与え、自分の成長や変容に気付くことができるようにしている。
- 子どもの学びから自分の指導を振り返っている。

P10

「令和6年度 授業改善グランドデザイン」より

「令和6年度 授業改善グランドデザイン」では、福島県の課題克服に向けて、

教師が「話す」授業から、
教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

授業改善を図ることを提案しております。

そこで、まずは教師の「話す」に注目してみましょう。

45分の授業の中で、教師が話している割合はどのくらい占めているのでしょうか。また、どのようなことを話しているのでしょうか。

本事例集では、教師の発話量と発問に着目して、「みる」「きく」「つなぐ」授業に向けた効果的な取組について、より具体的な事例を紹介していきます。

子ども一人一人の資質・能力を育むために

成果を上げている学校の実践から見えた「8つの取組」を紹介します。

子ども一人一人の資質・能力を育む「8つの取組」

授業づくりの視点から
～教科の枠を超えて～

算数科の視点から
～教科の本質に迫るために～

① 子どもをみる

「子どもの『何を』をみるか」がとても大切です。一人一人の表情やしぐさ、手や口の動きなどから、子どもの思いを見取っていきましょう。

② 子どもの声をきく

子どもの「どんな声」をきいていますか。大きな声はもちろん、声にならないような小さなつぶやきもしっかりと受け止めることが大切です。

③ 子どもを丸ごと受け止める

学級づくりの基本です。このような学級では、子どもたち同士も互いを大切な存在として尊重し合い、学級全体で高め合うことができます。

④ 単元を通して育みたい資質・能力

単位時間だけではなく、単元全体または単元同士のつながりを意識して、育みたい資質・能力を捉えることが大切です。

⑤ 本時のねらいと具体的な子どもの姿

ねらいが達成された「具体的な子どもの姿」を明らかにしておくことで、評価にもつなげることができます。

⑥ 本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」

「数学的な見方・考え方」を「子どもから引き出したい言葉」として明確にすることで、具体的な手立ても見えやすくなります。

⑦ 数学的な表現を用いた対話的な学び

子どもなりの表現を認めながら、算数科としての表現に高めていくことが大切です。対話を通して、数学的な表現のよさを実感できるようにしましょう。

⑧ 振り返りの充実と活用

「分かったこと」や「できるようになったこと」を、子どもが自分の言葉で表現し実感できるようにすること、さらに「だったら」と本時の学びを活用できる場をつくることが大切です。

算数科の学びにおいて、どの子どもにもよさや可能性があります。それらを見取り、価値付けることで、一人一人の資質・能力を育んでいきましょう。



実践事例内の番号は、上記の①～⑧と対応しています。

⑤ 本時のねらい

順列について、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

⑥ 数学的な見方・考え方

1番目に走る人を決めて、順番に考えていけばいいよ。

学習内容・活動

- 4人でチームを作り、リレーをする際の走る順番を考える。
- 落ちや重なりのないように調べる方法を考える。

1 学び出す

ポイント



この間、リレーの大会があったよね。先生は、4人の走順を、このように決めたよ。

みんなだったら、どんな順にするかな。

わたしだったら、Bさん、Aくん、Cさん、Dくんの順にするかな。

ぼくは、ちょっと違って、Dくん、Cさん、Bさん、Aくんの順だね。

4人が走る順番って、何通りもあるよね。

「無限にある」ということ？

無限にはないと思うけど...でもいっぱいありそうだね。

本時のめあて

①② 子どもをみる、子どもの声をきく

問題場面を提示し子どもたちに問いかけたら、あとは子どもに委ねてじっくりと待ちます。

みる

子ども一人一人の
・表情
・しぐさ
・動き
など

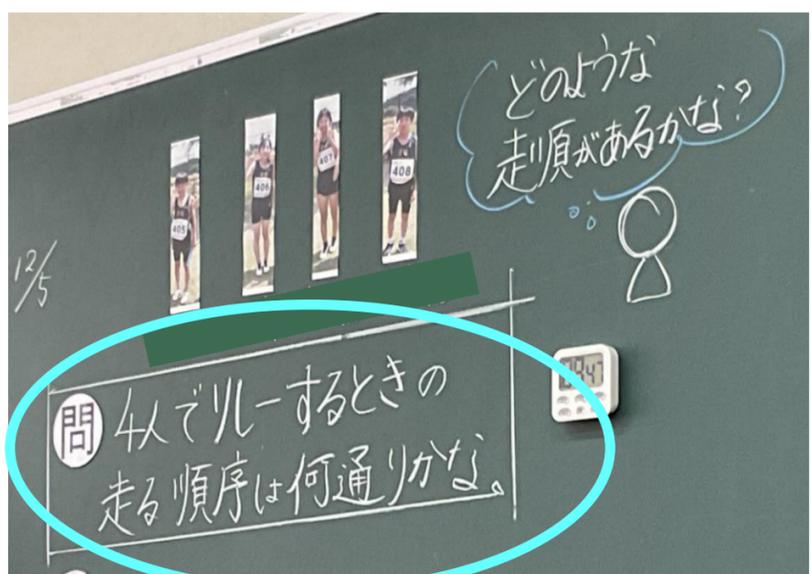
- 自ら動き出そうとしている子どもの姿
- 試行錯誤しながら何度もチャレンジする姿

きく

子ども一人一人の
・元気よく答える声
・つぶやき
・ささやくような小さな声
など

- 学級全体をみながらきく
- 子どものそばに寄り添いながらきく

すべての子どもが「**学び出す**」授業をつくるためには、子どもが自ら問題場面に働きかけることが大切です。子ども一人一人の「問い」がつながり、学級全体として「確かめたいこと」や「考えたいこと」が明確になります。



2 学び合う



じゃあ、やれる限り頑張って見つけてみよう。



考えてどんどん書いているんだけど、全部書いたか分からなくなる...



Rくんの困っている感じ、分かるかな？



そうそう！分かる！！



ぼくも、同じだったよ！それで、1走目の人を決めて考えてみたよ。

ポイント

①② 子どもの声をきく

小さなつばやきを拾い、一人の子どもの問いを学級全体で共有しています。

つなぐ

子ども一人一人の「問い」

- 一人の問いを学級全体で共有することで、本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」につなげていきます。

すべての子どもが「**学び合う**」授業をつくるためには、子どもたちが友達の問いを受け止め、寄り添いながら共に考えられる学級づくりが欠かせません。そのためには、まず先生が「子どもを丸ごと受け止め」、**すべての子どもの思いや考えを、同じように大切にしていきます。**



「1走目の人を決める」って、どういうこと？



さっきHくんが言ったみたいに、例えば1走目の人をAくんに決めるでしょ。そうしたら、2走目の人は...



ぼくは、表を書いて考えたよ。



まず、Aくんが1走目の場合を考えていけばいいんだね。2走目からも、順番に入れ替えていくと分かりやすい！



Hくんが言っていたことを図で表してみたら、すごく分かりやすくなったよ。

ポイント

⑥ 「数学的な見方・考え方」の共有

4人の走順を、思い付くまま自由に書き出す活動をするすることで、子どもたちから「もっと分かりやすく考えたい」「整理して見やすくしたい」という思いを引き出します。

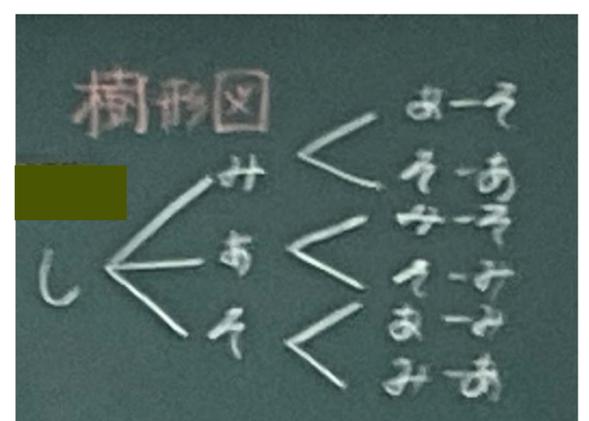
つなぐ

本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」

- 子どもたちの考えをつなぎながら、落ちや重なりなく調べる方法として、「あるものを固定して考える」ことよさに気付くようにします。

先生が、**子どもの考えを「つなぐ」**ことで、子ども同士が「つながり合おう」とする姿が見られるようになります。さらに、説明をつないでいく姿を称賛することで、数学的な表現力も育まれていきます。

1	2	3	4
①	②	③	④
①	②	③	④
①	③	②	④
①	③	④	②
①	④	③	②
①	④	②	③



3 学びとる

ポイント

⑧ 振り返りの充実と活用



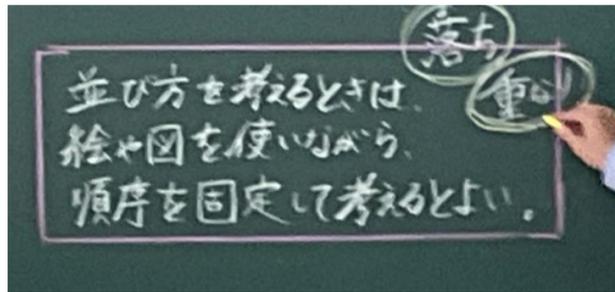
24通りですべてであることを、自分の言葉で説明しましょう。

「順列について、落ちや重なりがないように調べるには、図や表を用いて考えればよい」ことを、子どもが自分の言葉で説明できるようにします。

つなぐ

本時で働かせたい
「数学的な見方・考え方」

- 大切な用語も含めて、全体で確認します。その後、「だったら…」と本時の学びを、新たな学びへつなげる場面をつくります。



すべての子どもが、**本時の学びを確実に「学びとる」授業**をつくるためには、授業で「分かったこと」や「できるようになったこと」を、自分の言葉で表現する場を設けることが大切です。

担任の先生より



みんなで楽しい授業にしよう!

「どうしたら、みんなが楽しい授業にできるか」子どもたちと一緒に考えました。

- ・ みんなでたくさん考えられること
- ・ みんなが自由に自分の考えを話せること
- ・ 自分の考えを、みんなが受け入れてくれること
- ・ みんなで新たなものを見つけ出すこと

この学級がめざす「楽しい授業」に向けて、子どもたちと日々取り組んでいます。子どもたちの学びに向かう姿勢が、大きく変わってきたように感じています。

校長先生より

学校の生命は授業

本校では、すべての教職員が「学校の生命は授業」の基本的な考え方のもと、日々の授業に取り組んでいます。その中で、学力向上はもちろんのこと、人として生きる力を育てていきたいと考えています。

そのために、私たち教職員が、児童一人一人のよさを認め、励ます教育の徹底を目指しています。また、児童一人一人の育ちを見据えた意図的な活躍の場を設定し、どの児童にも自己肯定感や自己有用感の醸成を図っています。

自分たちの学校、学級を自分たちの力でよくしようとする力を育てています。

本校では、自分たちの学校生活、学級づくりを自分たちの力でマネジメントする力の育成に取り組んでいます。児童が、自分たちの学校や学級の状況を定期的に見つめ直し、よりよい学校や学級にするために、課題解決に向けて主体的に話し合う時間を大切にしています。

そのような話し合いを通して、児童がお互いを認め、理解し、自己の高まりにつなげる思いやりにあふれる人間関係づくりや学級づくりを行っています。その思いが、授業でも生かされていると感じています。



本時の 発話量



教師

23.2%



児童

28.6%

※「授業分析ツール」による

○ 残りの48.2%は、子どもが一人で考えたり、ペアやグループで活動したりしていた割合になります。

発問の ポイント

すべての子どもが

- 自ら問題に働きかけ、「問い」が生まれること
- 友達の「問い」に寄り添いながら、全員でよりよい「見方・考え方」について考えられること
- 本時で「分かったこと」や「できるようになったこと」を自分の言葉で表現できること

さらに
詳しく

授業づくりのポイント

みる

- 子どもを信じて「待つ」！

問題場面を提示した後、発問をした後、一人の子どもが発表した後…先生は、子ども一人一人が問題場面や友達の考えなどに働きかけ、自ら動き出す瞬間をじっくりと待っています。子どもに委ねるこの時間が、学びを子ども自身のものにします。

きく

- 子どもの話（思いや考え）を「丸ごと受け止める」

この学級では、とにかく子どもがよく話します。そして、友達の話をしっかりと聞いています。それは、先生自身に「子どもの話をたくさんききたい」「どんな考えも大切に受け止めたい」という思いがあるからです。そのため、この学級では、どの子どもの話も「丸ごと」大切にされています。

つなぐ

- 子どもから引き出したい言葉（数学的な見方・考え方）を明確にする

「1走目を固定して、あとは順番に入れ替えればいいよ」

この言葉を引き出すために、先生は、あえて子どもたちが試行錯誤しながら、よりよい考えに気付く活動を取り入れていました。その上で、子どもが見つけた「1走目の人を決める」という考えを、子ども一人一人が自分の言葉で表現することで、考え方のよさを実感することにつなげています。



⑤ 本時のねらい

元の大きさが違うと同じ大きさに分けた1つ分の大きさが違うことを、元にする大きさに着目して説明することができる。

⑥ 数学的な見方・考え方

1/2の大きさが違うのは、元の大きさが違うからだよ。

学習内容・活動

- 1枚のチョコレートを、1/2の大きさに分ける。
- 同じ1/2でも、大きさが異なる場合がある理由を考える。

1 学び出す

ポイント

①② 子どもをみる、子どもの声をきく

問題場面を提示し子どもたちに問いかけたら、あとは子どもに委ねてじっくりと待ちます。

みる

子ども一人一人の
・表情
・しぐさ
・動き
など

- 本気で考えている子どもの表情
- 友達にそっと声をかける姿
- 試行錯誤しながら何度もチャレンジする姿

きく

子ども一人一人の
・元気よく答える声
・つぶやき
・ささやくような小さな声
など

- 学級全体をみながらきく
- 子どものそばに寄り添いながらきく
- 子どもの思いを想像しながらきく

チョコレートを1/2の大きさにして、2人で分けてね。

ぴったり半分に折れば、1/2ができるよね。

えっ？なんで？なんで？なんで？

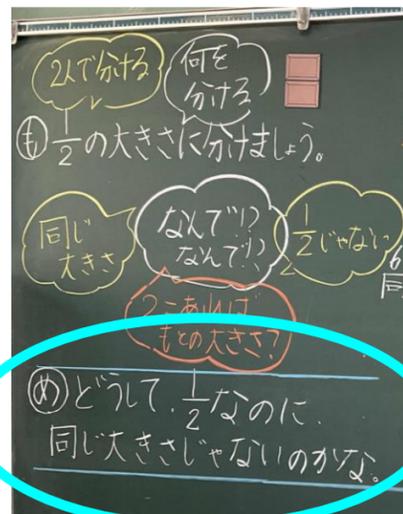
1/2なのに、同じじゃない！

Tくんの「なんで？
なんで？」の気持ち、
分かるかな？

Tくんの気持ちはね、きっと
Tくんの1/2とSさんの1/2が違
うってことだと思うよ。

Tくんの気持ちは、Aさんと一
緒にぴったり1/2に分けたのに、S
さんと比べたら、大きさが違うか
ら「なんで？」なんだと思う。

本時のめあて



すべての子どもが「学び出す」授業をつくるためには、子どもが自ら問題場面に働きかけ、「問い」をもつことが大切です。子どものつぶやきから見える素朴な思いに寄り添い、学級全体の問いとして共有することで、みんなで「確かめたいこと」や「考えたいこと」が明確になります。

2 学び合う

同じ1/2なのに、どうして同じ大きさじゃないのかな。

(ささやくように) 違う。

Kさんは、どうして「違う」って言ったんだろうね。

Kさんの気持ちはね、Kさんの1/2とTくんの1/2の大きさが違うということだと思うよ。

それもあと思うけど、Kさんの気持ちはね、先生からもらったチョコの大きさが違うということじゃないかな。

ぼくも、そう思ったよ。元の大きさが違うんじゃない？

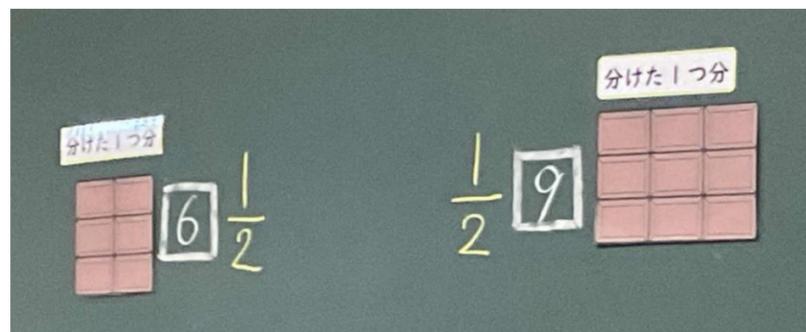
ポイント

①② 子どもをみる 子どもの声をきく

子どもたちのそばに寄り添い、声にならないような小さなつぶやきを拾い、全体で共有しています。

みる

- 友達の考えをきいて、同じように操作する姿
- 友達の考えを理解しようとする姿



すべての子どもが「**学び合う**」授業をつくるためには、友達の言葉（つぶやき）に込められた思いに寄り添い、共に考えられる学級づくりが欠かせません。そのためには、まず先生が子ども一人一人の思考過程を大切にし、言葉の奥にある思いを「丸ごと」受け止めるようにしていきます。

どうして、元の大きさが違うと思ったの？

1/2の大きさが2個あると、元の大きさになるでしょ。

Tくんの1/2は6で、Kさんの1/2は9だから、2倍すると12と18になるよ。

そうそう。2倍したら元の大きさが分かるよね。

「SさんとNさんがお話した2倍はね」って、隣の友達とお話ししてごらん。

ポイント

⑥ 「数学的な見方・考え方」の共有

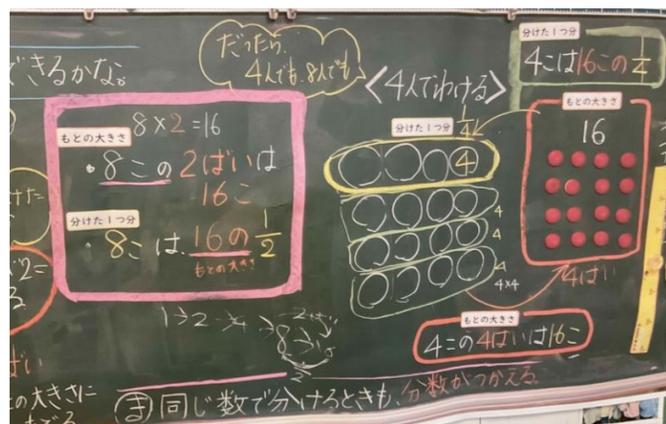
操作活動を通して、分数を考える際は「元の大きさ」が大切になることを確かめていきます。

つなぐ

前時の学びから本時の学びへ

- 「16個の1/2は8個」「8個の2倍は16個」の見方を生かし、元の大きさの1/2の大きさから元の大きさを見ると、2倍の大きさになる見方につなげていきます。

先生が、**子どもの言葉を「つなぐ」**ことで、友達の考えについて、根拠を明らかにしながら自分の言葉で説明することができるようになります。それにより、前時までの学びと本時の学びがつながっていきます。



<前時の学び>

3 学びとる

ポイント

⑧ 振り返りの充実と活用



同じ1/2でも、どうして同じ大きさじゃなかったのかな。隣の友達に説明しましょう。



元の大きさと、元の大きさの1/2の大きさの関係について、チョコ（半具体物）を動かしながら、自分の言葉で説明します。

つなぐ

本時で働かせたい
「数学的な見方・考え方」

- 「6個の3倍は18個だよ」「だったら、元の大きさが18のとき6は1/3の大きさになるね」子どもたちは、本時の学びを生かして、統合的に考えていました。

すべての子どもが、**本時の学びを確実に「学びとる」授業**をつくるためには、授業で「分かったこと」や「できるようになったこと」を、自分の言葉で表現する場を設けることが大切です。さらに「だったら、こんな見方もできるよ」と、子どもが自ら学んだことを生かしたくなる働きかけ（仕掛け）をすることで、統合的・発展的に考える力を育てていきます。

担任の先生より

全員で考えよう



授業中は、子どもの思いや考えを少しでも受け止められるよう気を配っています。「どうして、このように考えたのか」「どんなことを伝えたいのか」など、子ども一人一人の思いに寄り添えるよう、小さなつぶやきも丁寧にきくことを大切にしています。

それは、子ども同士も同じです。友達の思いや考えをしっかりと受け止め、一緒に考える姿を称賛しています。「〇〇さんの気持ちはね」と、子どもたちがお互いに関わり合う姿が多く見られるようになってきました。

校長先生より

誰一人取り残さない、すべての子どもが主役



本校では、すべての子どもが主役です。どの子どもにも、よさや可能性が必ずあります。それらを、本校の先生方はしっかりと見取り、受け止め、一人一人に応じた活躍の場をつくっています。

もちろん、授業においても同じです。先生方は、子ども一人一人の顔を思い浮かべながら教材研究をします。そして、「ここでは必ずAくんを活躍させる」「ここは絶対にBさんの考えを生かす」と心に決めて授業をしています。一人の子どもを大切にしている先生の姿が、子ども一人一人の自信や「私も同じように大切にされている」という学級全体の安心感につながり、どの子どもも楽しんで学んでいます。

一人一人の思いに寄り添う、安心感に包まれた学級づくり

本校の子どもたちは、自分の思いを素直に話すことができます。それは、先生方が常にどの子どもの思いも同じように大切に受け止めているからです。その姿が、子どもたちにも伝わり、お互いの思いや存在を大切にする学級をつくります。

授業においても、友達の「困っている」ことや「分からない」思いに寄り添いながら、安心感の中で、お互いに高め合う姿がたくさん見られています。

本時の 発話量



教師

15.4%



児童

37.9%

※「授業分析ツール」による

○ 残りの46.7%は、子どもが一人で考えたり、ペアやグループで活動したりしていた割合になります。

発問の ポイント

すべての子どもが

- 友達の「問い」（気持ち）に寄り添うことで、学級全体の「問い」になること
- イメージを共有することで、本時で「考えたいこと」や「やってみたいこと」が明らかになること
- 本時で「分かったこと」や「できるようになったこと」を自分の言葉で表現できること

さらに
詳しく

授業づくりのポイント

みる

- 子どもと同じ目の高さで「みる」！

問題場面を提示した後、発問をした後、一人の子どもが発表している時…先生は、床に膝を付き、子どもと同じ目の高さで一人一人の表情を見ています。そして、気になった子どものそばにそっと寄り添い、声をかけます。「先生は、いつもちゃんとみてくれる」安心感の中で、子どもたちは学んでいます。

きく

- 友達の話（考え）を「ききたい」！

「ねえ、みんなで話そう」この学級で、よく聞かれる言葉です。話しているのは、もちろん「子ども」です。先生は、1年生の時から、友達の考えをきくことで新たな発見ができたり、問題が解決できたりする楽しさや面白さを子どもたちに感じさせています。だからこそ、子どもたちは、みんなで話したくなるのです。

つなぐ

- 子どもの気持ちを「つなぐ」！

「〇〇さんの気持ち、分かるかな」

先生は、子どもの思考過程や数学的な見方・考え方を「気持ち」という言葉で子どもたちに問いかけます。そのため、子どもたちは、たとえ答えを間違えてしまったとしても、友達の思いに共感したり、考えのよさを見いだしたりしています。その中で、一人一人の「数学的な見方・考え方」が豊かになっていきます。



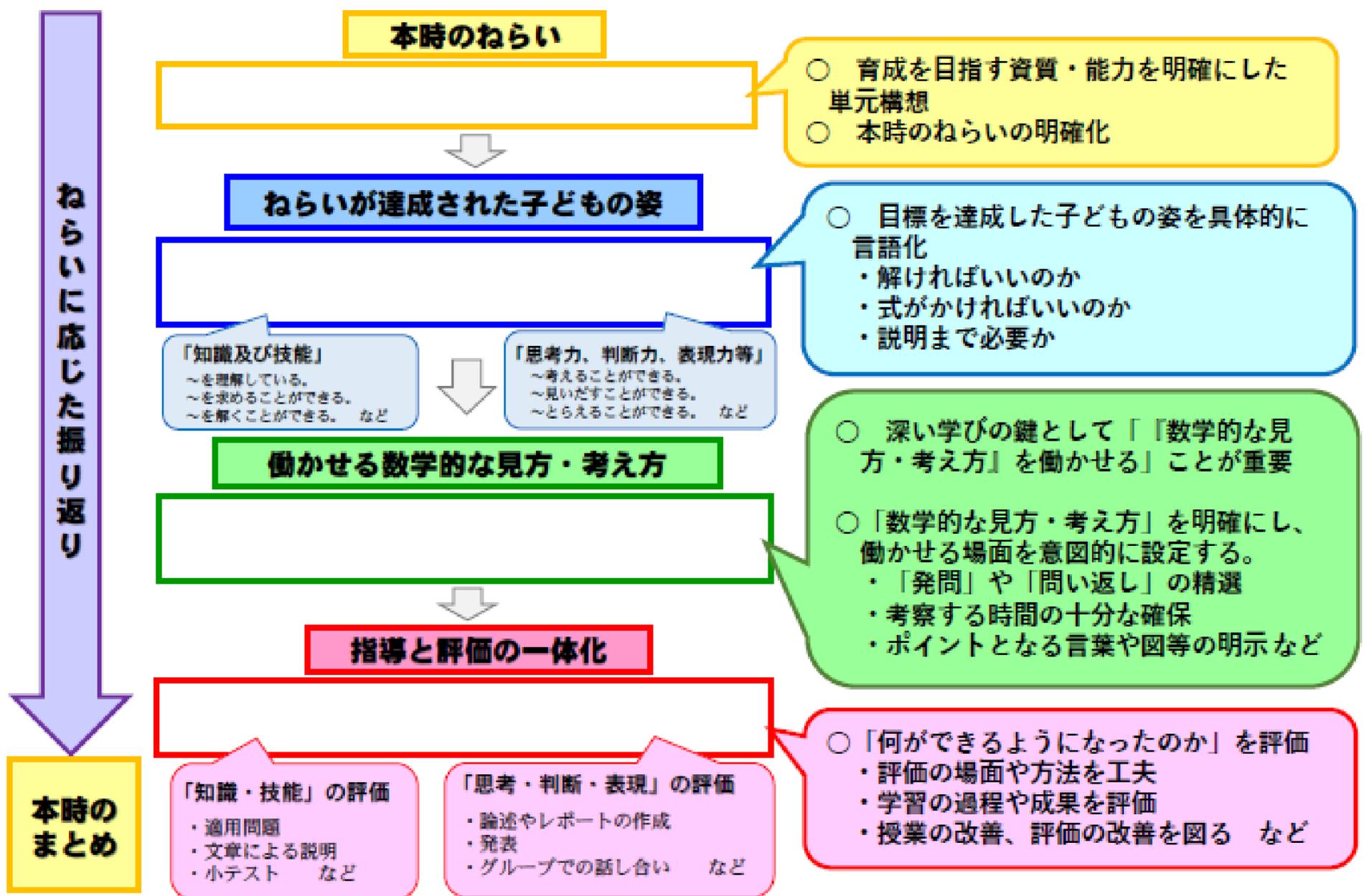
資質・能力を育む授業づくりのために

義務教育課では、子ども一人一人の資質・能力を育む授業づくりのために、下に示す4つの視点から授業を構想することを推奨しています。

子ども一人一人に、確実に資質・能力を育むためには、一単位時間の授業構想だけでなく、単元全体を見通した授業構想が大切です。

この「授業構想シート」は、義務教育課のホームページにも掲載しております。授業づくりの際にぜひ御活用ください。

授業構想シート



右の二次元コードからも、「授業構想シート」を検索することができます。ぜひご覧ください。



「授業構想シート」活用例①

授業構想シート

第3学年 あまりのあるわり算「わり算を考えよう」

本時のねらい

商や余りの意味に着目して、問題に応じた余りの処理の仕方を考え、説明することができる。

ねらいが達成された子どもの姿

- 実生活と結び付けながら考えている姿。
- 図や絵を用いて、あまりを1つの箱に入れる理由を説明している姿。

具体的に、どのような説明ができればよいのか

働かせる数学的な見方・考え方

- 「8こ、20こと同じように、…」
- 「もしもボールだったら、…」
- 「もしも6こずつ入れていくことになったら、…」
- 「ケーキ23このときと同じように、…」

子どもから、どのような言葉を引き出したいのか

指導と評価の一体化

ボールが26こ。1箱に6こずつ入れる…。
→ $26 \div 6 = 4$ あまり2 $4 + 1 = 5$
あまりの2こを箱に入れるためには、もう1箱必要だから。

「授業構想シート」活用例②

授業構想シート

第4学年「角の大きさの表し方を調べよう」

本時のねらい

180°より大きい角度の測定の仕方を既習の分度器を用いた角度の測定の仕方を基に考え、説明することができる。

ねらいが達成された子どもの姿

- ・180°や360°を基に、式や言葉で説明することができる。
- ・自分の考えと他者の考えを比較し、どの考えも直角を基にしてできる角に着目して考えているという共通点を見いだすことができる。

【具体的な子どもの姿】

180°より○°大きい角を「180+○」、360°より○°小さい角を「360-○」と表している。

働かせる数学的な見方・考え方

- ・角の大きさに見当をつけ、直角の大きさを基準とした180°や360°の角に着目して考える。

【手立て】

- ・既習から未習へと続く課題提示の工夫により、本時の課題を明確にする。
- ・式と図を相互に関連させるコーディネートの工夫により、どの考えも直角を基にしてできる角に着目して考えているという共通点に気付かせる。

【本時の内容を統合的・発展的に捉えた子どもの言葉】

「前の時間の『180°を基にして考える』と同じようにして、180+○とできるのでは…」
「270°より大きい角度のようである。だったら360-○と考えることも…」など

指導と評価の一体化

【評価】

180°より大きい角度の測定の仕方を、既習の分度器を用いた角度の測定の仕方を基に考え、説明することができる。

<適用問題解答例>

- ・180°より大きい角なので、式は $180+150=330$ となるため、求める角の大きさは330°となる。
- ・270°より大きく360°より小さい角なので、360°から分度器で測った角の大きさをひいて、 $360-30=330$ になる。そのため、求める角の大きさは330°である。

「授業構想シート」 活用例③

授業構想シート

第6学年 「円の面積の求め方を考えよう」

本時のねらい

既習の図形を基にしながら、円を含む複合図形の面積を求めることができる。
(知識, 技能)

ねらいが達成された子どもの姿

- ・ 複合図形に含まれる既習の図形の組合せを捉えることができる。
- ・ 既習の図形の面積の求め方を基に、複合図形の面積を求めることができる。

働かせる数学的な見方・考え方

数学的な見方

- ・ 複合図形から面積を求めることができる既習の図形を見出す。

数学的な考え方

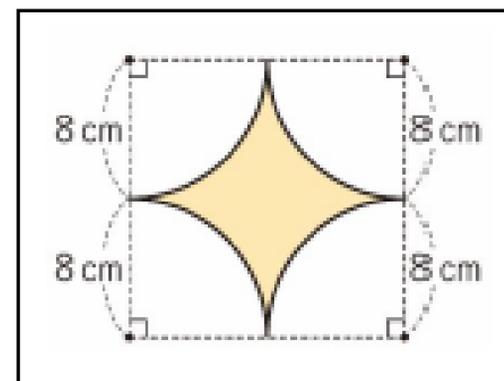
- ・ 円の面積の求め方を想起しながら公式を用いて計算したり、面積の求め方について説明したりする。

指導と評価の一体化

【子ども】 円を含む複合図形の求積について、適用問題に取り組み、既習の図形を基に計算する。

適用問題 色をぬった部分の面積を求めましょう (右図)。

期待する回答例 $16 \times 16 = 256$
 $8 \times 8 \times 3.14 \div 4 \times 4 = 200.96$
(または $8 \times 8 \times 3.14 = 200.96$)
 $256 - 200.96 = 55.04$ 55.04cm²



【教師】 上記の問題で、本時のねらいについて評価する。また、効果的だった指導の考察を行うとともに、課題と改善策について事後研究会で検討する。

すべての
子どものために

